

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	栃木県	事業実施主体	栃木県、那須塩原市	地域再生計画名	那須塩原市「ウェルカム なすしおばら 選ばれしまちへ」
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	那須塩原市建設部長 富山 芳男		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値			事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
				基準年度		年度	中間実績		基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	核となる定住エリア人口の増 （那須塩原駅土地区画整理地内）	1,880人	H26	1,940人	H29	2,065人	2,010人	R3	2,413人	○	指標 総数	達成数	那須塩原駅土地区画整理地区へ繋がる周辺道路の整備により、定住エリアの利便性が一層高まり、目標値を達成することができた。
	指標 2	観光客入込者数の増	979万人	H25	1,020万人	H29	936万人	1,077万人	R3	677万人	×	5	4	事業着手後は順調に増加していたものの、中間実績では、観光シーズンに受けた台風等悪天候の影響により減少してしまった。その後、回復の兆しも見えたが新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、最終実績では目標値を大きく下ってしまった。
	指標 3	林道危険箇所の解消	17箇所	H26	7箇所	H29	8箇所	0箇所	R3	0箇所	○			計画的に林道の危険箇所を解消した結果、目標値を達成することができた。
	指標 4	間伐実施面積の増	0ha	H26	0ha	H29	13ha	10ha	R3	59ha	○			林道沿線において間伐が促進された結果、目標値を達成することができた。
	指標 5	保全対策推進率	0%	H26	0%	H29	1%	5%	R3	5%	○			林道橋全数の点検診断が完了した結果、目標値を達成することができた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	－												
	指標 2	－												
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度 (H29)	最終実績									
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		17.9km	9.2km	16.6km	計画した整備量には届かなかったものの、新設・改築路線は完了しており、那須塩原駅周辺の広域拠点へのアクセス性が向上し、定住エリア人口増加の一因になったものとする。								
	林道整備事業（整備延長）		0.5km	0.3km	0.5km	林道花取線については、希少な猛禽類の環境保護のため工事開始可能時期の目途が立たない状況を踏まえ、本計画を変更し削除したものの、現計画ではその他路線の整備が完了し、危険箇所解消の目標を達成することができた。								
その他の事業	(1) 黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業		都市再生整備計画により黒磯駅東口広場、駅前図書館「みるる」及びまちなか交流センター「くるる」の整備を行い、街の魅力向上とにぎわいの再生及び快適な生活と滞在が可能な都市環境の形成を図る。			黒磯駅東西駅前を一体的に整備することにより都市機能と交通結節機能の向上を図り、また、駅前に教育文化施設と複合交流施設を整備することで駅を中心に地域交流を促進させ、都市の再興を目指し集住促進が期待される。								
	(2) 那須塩原駅周辺地区の整備		那須塩原駅東西口広場の再整備や西口前通りである東那須野大通り線の電線地中化と歩道整備及び地区内公園の整備などを行い、核となる定住エリアの那須塩原駅周辺地区の拠点性の強化と良好な生活環境の確保及び利用者の利便性向上を図る。			有識者会議や市民懇談会、アンケートやワークショップ等の市民参画のプロセスを経て、市民の意見を伺いながら令和2年度に那須塩原駅周辺の30年後のあるべき姿、これから目指すべきまちづくりを描いた「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」を策定した。今後は、目標年次である令和32年度に向けて、栃木県北・那須地域の玄関口にふさわしい場所として整備を進めたい。								
	(3) 新庁舎の建設		広域拠点地区であり、核となる定住エリアの那須塩原駅周辺地区の新庁舎を建設し、広域拠点地区の拠点性を強化するとともに市民の利便性強化を図る。			新庁舎建設については、社会情勢の変化に対応するため、新庁舎の在り方について建築等の専門的な知見を加えた上で、新庁舎建設基本計画の一部見直しを行っている。今後は見直し後の基本計画に基づき新庁舎建設を行っていく。								
	(4) 新幹線通勤助成制度		那須塩原駅から新幹線を使用して通勤する市民に対して定期代の一部を助成することにより、市外から転入者を呼び込んで定住の促進を図る。			中間目標年度の平成29年度では16人が補助制度を利用していたが、徐々に利用者数を増やし、令和3年度では25人が利用するまでに至っている。本事業は、転入者を呼び込むことに一定の効果を発揮したものと考えられるため、今後も継続したい。								
	(5) 地域バス運行事業		交通拠点の鉄道駅に接続する那須塩原市地域バス「ゆーバス」や定時定路線型のデマンド交通「ゆータク」の運行により、市民の市内外へのアクセス向上及び市外からの来訪者の移動手段の確保を図る。			「ゆーバス」の運行については、新型コロナウイルス感染症対策として、朝夕の通勤・通学の混雑時間帯における3密を解消するため、令和2年6月1日から一部増便するなど、安心して利用できる環境整備を進めている。本事業では、地方都市特有の交通事情である駅利用者等の市街地へのアクセス、或いは市街地から駅へのアクセスの不便解消に一定の役割を果たしていると考えている。								
計画外で独自に実施した事業	－													
	－													
④評価方法	那須塩原市施策評価会議を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。													
⑤事後評価の公表方法	那須塩原市道路課のホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道・林道の一体的な整備と林道橋梁の点検・診断による保全対策を行うことにより、林道通行における安全性の向上や林業の振興と観光客増加による観光産業の振興を図る。 指標 2 については最終目標値が未達成であるが、新型コロナウイルス感染症で観光業への打撃が深刻であることを考慮すれば、やむを得ないと考えている。 なお、観光客入込者数は令和2年度を底にして令和3年度は増加していることから、今後新型コロナウイルス感染症が収束するにつれ観光客入込者数も増加することが見込まれるため、引き続き地域再生計画を継続することで効果の検証を行っていく。													
⑦今後の方針等	令和4年度に新たに策定した地域再生計画をもとに、広域農道と市町道を一体的に整備することにより農産物や加工品の品質低下を防ぎ、生産等拠点施設間の連携を強化したい。 また、緊急輸送道路へとつながる路線を整備することにより、地域間の安全安心を確保しつつ、豊富な観光資源への広域的なネットワークを構築したい。													